

東京都立産業技術高等専門学校

第7期 第2回 運営協力者会議

日 時:令和5年11月24日(金)15:00~17:00

場 所:東京都立産業技術高等専門学校 品川キャンパス

出席委員:大東工業株式会社 代表取締役 井上 浩

国立大学法人 豊橋技術科学大学 教育戦略本部 特定教授 江崎 将人

JAL ビジネスアビエーション株式会社 執行役員 管理部長 海老名 巖

地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター 企画部長 片桐 正博

富士セイラ株式会社 代表取締役社長 高須 俊行

広島大学 大学院先進理工系研究科 特任教授 高田 十志和

日本マイクロソフト株式会社 業務執行役員 ナショナルテクノロジーオフィサー 田丸 健三郎

(敬称略・氏名五十音順)

議題1 令和4年度及び第三期中期目標期間における業務実績報告に関する意見について

説明：吉澤校長

吉澤校長から、令和4年度及び第三期中期目標期間における業務実績報告に関する概要及び意見について説明があり、運営協力者から以下の意見・質問があった。

<意見・質問> ○運営協力者 ●高専

- モンゴル高専と連携するようになった理由は何か。
- モンゴル高専を設立する際、本校の元校長や元教員が尽力した経緯があり、元々つながりがあった。また、現在も設立の時に関わった元教員の一人がモンゴル高専の理事長として、様々な面でサポートを行っている。
- 特定技能制度の航空分野において、モンゴル高専の学生は国外試験で優秀な成績をおさめていた。今後もこうした取り組みを継続して頂きたい。
- 新たに立ち上げられた学生広報チームにおける女子学生の割合はどれくらいか。また、学年の構成はどうなっているのか。
- 10名中3名が女子学生で、メンバーは全学年から出ている。また、令和5年度に新たに制作した、ウェブ上で学校見学ができるパノラマビューにおいても、「この施設を入れた方が良いのではないか」等の学生広報チームからの意見を取り入れ、学生目線で分かりやすいものを作ろうとしている。
- 現在、学生から寄せられる相談はどのような内容が多くを占めているのか。また、コロナ禍の時期と現在とでどのような変化があるのかも参考までに教えて頂きたい。
- 平成27年からカウンセラーを2名体制にしたことにより、相談件数は以前に比べて増加している。また、相談に来る学年は2年生と5年生が多く、前者は人間関係、後者は進路に関する相談が主となっている。なお、カウンセラーがいてもなかなか相談に来ない学生もいるので、春と年末に学生向けにアンケート調査を行い、人間関係や自尊感情をチェックすることで、悩みがありそうな学生に教員から声掛けができるような対策を取っている。また、中学校から何らかの送り込み事項があった学生については、教員から積極的にカウンセリングを受けるように促すようにしている。
- 外部資金の獲得は外部との連携強化の意味でも重要なので、その視点からも今後取り組んで頂きたい。
- 既に外部とのつながりを持っている教員と協力して、特に比較的若い層の教員が企業や大学とつながっていけるようにする取組を始めている。
- コロナ禍が明けてから就職活動は売り手市場になっているが、一方で学生の納得度は年々下がってきていると言われている。そういう中で、キャリアポートフォリオの取組は学生が自身を内省する機会として非常に有効だと思われる。ただ、キャリアポートフォリオは仕組みができて、運用が中々難しいと思われるが、その辺りについてどのように取り組まれているのかを教えてください。
- 本校でのキャリアポートフォリオは3年生と4年生の2年間に、モチベーションアップと企業研究を主な目的として実施している。最終的には本人と教員、保護者がキャリア全体を共有する資料として、

学生の思いや企業を志望した理由を見える化できるようにしている。

- キャリア支援については、キャリア支援センターと担任が定期的に会議を行い、就職活動や進路状況について密に共有するようにしている。また、動き出しが遅い学生に対しては、個別に支援するようにもしている。

議題2 学生の課外活動報告について 説明：柴崎副校長

電気電子工学コース 石橋 正基 教授

品川キャンパス 電気電子工学コース 石橋 正基 教授から、海外体験プログラムについて説明があり、運営協力者から以下の意見・質問があった。

<意見・質問> ○運営協力者 ●高専

- プログラムに参加する学生はどのように選抜しているのか。
- 単に語学力だけではなく、「海外に行くことで、こういうことにチャレンジしたい、成長をしたい」といった観点から小論文と面接による選抜を行っている。
- 海外での経験が向いているか否か、また、壁を打ち破っていけるか否かでひとの成長は大きく異なってくる。是非、今の様な意欲に重きを置いた選抜を続けて頂きたい。
- 本プログラムへの参加負担について、IEP が半額補助、GCP が全額補助となっているが、学生の実質負担はどのようになっているのか。また、経済的理由で参加することができていない学生の見込みについても教えて頂きたい。
- 半額補助を基本としている IEP では、経済的に苦しい家庭を対象とした参加費の免除制度があるが、令和5年度には申込がなかったことから、学生への周知が十分ではなかった可能性もある。また、家庭の経済状況が厳しい学生でも全学補助がある GCP への参加申し込みは多かった。
- IEP で実施している英語レッスンはプログラム参加者しか受講することができないのか。また、全学向けに同じような英語レベル、スキル向上を目的としたものはあるのか。
- IEP の英語レッスンは、本校の国際交流ルームで実施している英語レッスンに参加する形をとっている。その為、IEP 参加者の受講は必須となっているが、その他の学生も自由に参加することが可能である。なお、本校では3年生と4年生には海外体験プログラムへの参加にかかわらず、全員 TOEIC 受験を義務付けており、それ以外の学年も希望すれば受験することができるようにしている。

柴崎副校長から、スタートアップ教育支援プログラム「地動計画」とSDGsへの取組みについて説明があり、運営協力者から以下の意見・質問があった。

<意見・質問> ○運営協力者 ●高専

- 作成したプロモーションビデオを大きなディスプレイを校内の5～6か所に設置すれば良い広報になると思う。大学受験のことを気にせず学ぶことができる高専で、物事をスタートアップという目線

で見られるマインドを培うことができるのは、とても良いことだと思う。

- 全く新しいものを作ろうとするとハードルが高くなってしまいますので、「日本ではまだない」ということでもありだということを是非学生にアドバイスして頂きたい。
- スタートアップ教育支援プログラムに参加した学生のプロトタイプの出来はどうだったか。
- 参加した7名の内、ある程度まで進められたと思えるのが2つであった。動かしてみて、壊れたらまた直してというレベルではあったが、短い期間できちんと動くところまで作ることができたのは、高専の学生の凄いところだと再認識した。
- 今年のスタートアップ教育支援プログラムは1人での参加だったとのことだが、実際に起業をしてみると1人では絶対に対応しきれない。裏を返せば、ビジネスに秀でている学生、特定の技術にとっても詳しい学生といった組み合わせがうまくいくと、全体としてとてもうまくいく。是非、今後そういったことも考慮して頂きたい。
- プログラム当初ではグループで取り組む案も出ていたが、まずは個人で動き始めて、参加者同士で意見を言い合っている内に核ができ、仲間になっていくという流れで今年は取り組んでみることになった。頂戴したご意見はこの今年の実践の次のステップだと思うので、最終的には色々な人と出会いながら進めていけるようにしていきたい。

以上